

四季の歌

心映の投句
俳句・短歌教室の詠歌紹介

ともしび短歌会短歌詠草

しつとりと白壁並ぶ赤絵町白磁の陶雛に春のぬくもり
黄砂ふり花粉の舞へば暖かき春のひと日も部屋にこもりぬ
落の臺あまた萌え出づ妻逝きてその酢味噌和え久しく食せず
冬籠りせし虫のごと老いわれは春の気配に誘はれ出づる
吹く風にはだか桜木ゆれているその頂きの芽ぶきのあたり

三村 和子
白石 信子
福田 昌
武藤 鶴代
辻田 幸也

サンヒルズふくち会・はな句会

池田一步選

夜明けより視界一面春の霧
心地良き湯あがりの風春の月
雛の子供の頃にふとかへる
紅椿納骨堂に風通す
轉をふりこぼしるる杉古道
魁て彼岸桜の咲き初めし
街を行く春著を軽く着こなして
教へ子の文読み返す春灯
日の匂ひ風が伝へて春の庭
うら、かや二度と巡って来ぬ佳き日
忌に集ふ姉弟に灯あた、かく

中西ナルエ
永末 公恵
宇野美奈子
大堀まさる
熊谷カツミ
田口さとし
本島真知子
桑野 園女
柴田ヒサエ
持丸テル子
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室

岩井鬼童選

春愁や役を終へたる川舳
春シヨール風をおしやれになびかせて
春風邪に身の門のゆるみたる
犬ふぐり星のしづくに深眠り
平安も江戸も仲良く離れる
校正の一語の重き凍て返る
幼子と母の片言風光る
鶯に夫との会話とぎれがち
新しい学生服に風光る
眠れば囁き聞こゆ雛の間

松岡 萬枝
建部三由紀
日比生利子
永尾喜美江
小川 雪
長副美恵子
迫田 昌子
今井三千代
吉村ヨシ子
花石かほる

方城句会

池田一步選

点滴の無慈悲に長し寒灯下
ワイパーの軽く落ちて春の雪
竹生島声朗々と新走
冴返る千畳敷の阿弥陀堂
日帰りの旅の道連れ福寿草
花菜道送笛余韻友の逝く
走り出す子に犬までも野に遊ぶ
千の風となりて木蓮賞ずるかな
おぼろ月薄き一線飛行機雲
開かさや夜更けの急灯も冷めて
卒業を真近に弾む声とこゑ

松本美根弥
野村 鈴子
長尾 冴子
桑野 昌宜
白石 凡子
渡邊 一枝
尾崎 和子
藤井耿之介
杉 フジエ
倉石嘉代子
木村 誠一

福智の風

▶花鳥風月とは無縁でした…
広報の担当になるまでは。今回多くの方々のご協力を得た特集。その編集の最中、自分自身に気づくことが多々ありました。振り返れば、以前は視野も狭く、時事感覚や意識は無いに等しかったかもしれません。人に出会い、物に触れ、優しさを感じ、真実を見極める視点や気づく感覚を少しは吸収できたかと思えます。自分を育ててくれた広報。いまあらためて、この愛すべき広報に出会えたことに、心から感謝いたします。(長野)

▶葉の花や小鳥のさえずりに、春の訪れを感じてきました。卒業式の取材やご近所さんの引っ越しなどに「別れの春」を感じ、柄にもなく少ししんみりしてしまった今月。でも振り返ってばかりはいられません「別れがあれば出会いもあるさ」。新しい世界に旅立った人たちの幸せを願うとともに、これから始まる新たな出来事や今後出会うであろう人たちにワクワクと心躍らす今日このごろです。(昌太郎)

▶福智町で迎える4度目の春。広報ふくちもいつの間にかNo.40に達しました。今までの号を振り返ってみると、毎号1ページ1ページにその時々々の想いがよみがえります。多くの人たちに出会い、その言葉や生き方に感銘を受けて今の自分がある… 出会いが人生を左右すると言っても過言ではありません。藤が人と人との出会いをつないできたように、私達の想いをのせた広報が、みなさんにとって何かのきっかけになれば幸いです。(日吉)



1 冒頭で浦田町長が「連携した子どもの環境づくり」を力強く呼びかけ。2 田川署の決意を示した花田署長。3 参加者に強烈な印象を与えた薬物実験。4 ポスター優秀表彰を受ける宇野美加里さん。5 力強く意見発表する石田猛流さん。6 展示された町内中学2年生の啓発ポスター。



福智町シンナー等乱用撲滅大会

主催/福智町青少年問題協議会・田川警察署

町を挙げて薬物根絶

福智町青少年問題協議会(会長・浦田弘二町長)と田川警察署が開催した「シンナー等乱用撲滅大会」。町を挙げた薬物撲滅の取り組みに町民や学校関係者など約350人が参加し、子どもたちを薬物から守る対策を考えました。



青少年が薬物乱用の脅威にさらされている危機的状況の解消を図る「シンナー等乱用撲滅大会」が、3月15日に同和対策研修センターで開催されました。福智町はシンナーの検挙・補導件数が9年連続全国ワースト1(福岡163件・全国569件)。全国的に減少傾向ですが、昨年の田川署管内は24件で前年比3倍。うち福智町は14件を占めています。



元県警少年補導職員の前田詩子さんが「小さなSOSをキャッチできるアンテナが大切。大人が愛と責任を持って子どもに目を向け、関心を持つことから始めて」と経験を踏まえて講演。

大会では、田川警察署の花田利夫署長が「乱用少年の補導と(供給源の)暴力団に徹底した対策をとる」と、地域と一体化した環境づくりを強調。県警少年課の志津田浩之係長は、シンナーで発泡スチロールが数秒で溶ける様子を見せ、リボンに映し「脳も溶けて破壊され、再生は不可能」と危険性を説明しました。町内3中学校の2年生235人が描いた啓発ポスターの表彰では、宇野美加里さん(赤池中)、荒川奈都音さん(金田中)、田邊美咲さん(方城中)が優秀賞を受賞。最後に各中学校を代表して、世良有未さん(赤池中)、吉村真奈さん(金田中)、石田猛流さん(方城中)が「強い意志を持って根絶に取り組みたい」と力を込めて会場全体に訴えかけました。